

今年の教区の目標

いのちの輝きは
聖性の光
救いの泉

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バート司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2024年5月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第786号 (5月号)

那覇教区シノドス開催

2024年4月28日



2023年10月の、バチカンにおけるシノドス第1会期が終了し、24年10月の第2会期に向けて、各教区・小教区でその準備をするよう呼びかけられています。その一環として、去る3月7日と8日の両日、東京・日本カトリック会館で「日本のシノドスのつどい」が開かれ、那覇教区からはウェイン司教様とナビーン神父様、シスターアイビーとマーシーさんが参加しました。「シノダリティ」というなじみのない表現を、日本のカトリック教会は「ともに歩む」と訳しています。シノドス的な教会とは「ともに歩む」教会なのです。そして、その歩みはすでに始まっています。

4月28日には那覇教区に於けるシノドスのつどいが開南教会ホールで開かれました。各小教区からの信徒たちと修道会のシスター達が集まり、事前に要請のあったテーマに沿って話し合ってきたことを発表し、分かち合っており、次のステップに向けての準備を行いました。(7ページに教区シノドスの写真を掲載)

May, the Month of Mary our Mother

By: Fr. Francis Nguyen Duc Tien

There are several Feast Days dedicated to Mary, our Mother and among these feast days my favorite is the month of May. In my 15 years of priesthood in the diocese, I happened to be assigned to two parishes dedicated to the Blessed Mother. The Cathedral dedicated to the Immaculate Heart of Mary and at present here at Asato Church dedicated to Mary, Health of the Sick. In these two churches we held the May procession with special ceremonies that included rose-offering, praying and singing. Children were dressed up like angels bringing with them a basket full of rose's petals. They tossed the petals for Mary while the altar-boys offered incense to Mary as we passed at each station. The atmosphere was spiritually solemn.

To give that day more meaning, we held the May Procession on the same day as Mother's Day. As Catholics, we also honor Mary as our mother and offer her our special gifts through offering beautiful roses and prayers. The children who offered rose petals to Mary still remember the beauty of that May Procession. I hope and pray that their devotion to our Mother Mary may remain for the rest of their lives.

Furthermore, the Church is also celebrating the Feast of the Visitation of the Blessed Virgin Mary on May 31st. As Mary carried Jesus while in her womb and went in haste to visit her cousin Elizabeth who was also with child, so during this month we also joined Mary in visiting families. Learning from Mary, we carried Christ in our hearts visiting some families bringing with us her statue. When we entered the house, we read the Gospel according to Luke (1: 39-56) and followed by a short explanation and sharing. After praying twenty Hail Mary, I blessed the house and the family members. And at the end, we have snacks together while listening to their different faith stories. Through this visit, many people who could not go to Church or who are non-Catholics came to know Mary and the Church. I told them that even if they did not go to Church to meet Jesus and Mary, Jesus and Mary never forgets them. Welcoming them to come and visit their family, bring peace and joy by opening their hearts to everyone. Through this visitation I came to know their families on a personal level and so I was able to journey with them more closely.

Since the Corona pandemic happened, we postponed visiting families especially during May. Some parishioners approached me and said they want to do it again soon after the situation gets better.

I hope and pray that one day we can again join Mary, our mother, in carrying Jesus together to visit many families in our parish. I hope that these experiences are not just nice memories of the past. But can be renewed every month of May, the Month of Mary. Offering prayers, roses and good deeds to Mary everywhere, we once again allow Mary and Jesus to come and visit our own hearts and the families we visit bringing them Peace, Hope and Joy.





キリストは私たちの命の泉

ボスコ・ティン神父

首里教会 主任司祭



らせるのです」(1コリント十一・26)。「このパン」とはイエスの体です。イエスは、このパンを取り、感謝をささげ、割って言われたからです。「これはあなたがたのために渡される私の体である」と。また、「この杯」とはイエスの血なのです。イエスは杯を取り、感謝をささげ、言われたからです。「みな、これを受けて飲みなさい。これは私の血の杯、あなたがたと多くの人のために流されて、罪のゆるし

今、そのことを私たちはミサの中で行っています。「ミサ」は私たちの救いのために、また、私たちの罪をゆるし、償うための、聖なる行いです。ですから、私たちはミサを捧げるときに、そのことを十分に理解し、確信して、与りましょう。

聖ヨハネ・クリゾストモは言いました。「実に、女性が本性的な愛情にかられて自分の産んだ子を自分の乳で養うように、キリストもご自分が再生させた者たちを、ご自分の血で、絶えず養われるのです」。キリストは、人間の本性的な愛情だけではなく、神の本性的な愛によって、聖体と御血で私たちを養ってくださるのです。そのことを、受難と十字架上の死によって、具体的にあらわされました(聖金曜日)。

「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点においてわたしたちと同様に試練に遭われたのです」(ヘブライ四・15)。「この大祭司」は私たちの主イエス・キリストです。十字架上で神に自分自身をささげます。イエス・キリストが試練に遭われたのです。

イエスが刺しつらぬかれたのは、私たちの背きのためであり、イエスが打ち砕かれたのは、私たちの咎のためでした。イエスの受けた苦しみによって、私たちに平和が与えられ、イエスの受けた傷によつて、私たちはいやされました。父なる神はこのことをのぞまれ、イエスは自らを償いのささげ物としました。私たちの過ちを担い、背いた者のために執り成しをしたのです。私たちは大祭司、私たちの主イエス・キリストを公に言い表している信仰をしっかりと保たねばなりません。そして、その恵みを受け、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座近くに生きましょう。

私たちの大祭司は十字架上で亡くなり、死者の中から復活されました。

「カトリック教会のカテキズム」(教会の教えをまとめた文書。公式に教会から発行された)から、主の復活の部分を少し読んでみましょう。

「イエスの復活は、キリストを信じる私たちの信仰の頂点となる真理です。これこそ、最初のキリスト者共同体が中心的な真理だとして生きてきたもの、伝承が根本的なものとして伝えたもの、新約聖書の諸書が明らかにしたもの、イエスの十字架上の死と並んでキリストの過越の神秘の根本的要素としてのべ伝えられてきたものなのです」(六三三八参照)。

・「事実、イエスの復活の出来事自体を目撃した者はだれもおらず、福音記者のだれもこれを描写していません。復活が身体的にどのように行われたかを語りうる者は、だれもいませんでした。ましてや、その秘めされた本質、つまり、別のいのちへの移行は感覚でとらえることはできないのです。空の墓のしるしと使徒たちが復活したキリストと出会った事実とによつて確認される歴史的出来事であるキリストの復活は、相変わらず歴史を過越し、凌駕するものとして、信仰の神秘の核心を成しています」(六四七参照)。

パウロは言った。「あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたもキリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう」(コロサイ二・4)。

となる、新しい永遠の契約の血である」と。

キリストは過越・死と復活を通して、私たちの命の泉になるのです。最後の晩餐(聖木曜日)はその命の泉の始まりです。更にパウロは言った。「このパンを食べ、この杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知

る」と。そして、「主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです」とは、最後の日まで、私たちのために亡くなられたイエスを確信して生き、行うことです。なぜなら、イエスが「これを私の記念として行いなさい」と言われたからです。

イエスが刺しつらぬかれたのは、私たちの背きのためであり、イエ

私たちの死と復活は、キリストを信じる私たちの信仰の頂点となる真理です。これこそ、最初のキリスト者共同体が中心的な真理だとして生きてきたもの、伝承が根本的なものとして伝えたもの、新約聖書の諸書が明らかにしたもの、イエスの十字架上の死と並んでキ

私たちの死と復活は、キリストを信じる私たちの信仰の頂点となる真理です。これこそ、最初のキリスト者共同体が中心的な真理だとして生きてきたもの、伝承が根本的なものとして伝えたもの、新約聖書の諸書が明らかにしたもの、イエスの十字架上の死と並んでキ

「信仰の弱い私たちを助けて下さい。勇気をもってあなたの道を歩み、神と人々への愛に生きることが出来ますようにアーメン。」

神さまの御子イエス様を黙想する「四旬節」で「十字架の道行」の大切な祈りと主日の御ミサ、金曜日の夜の御ミサで道行を通して祈りました。

神の御子イエス様の「死刑宣告から十字架にかけられ死に至る」、一留から十四留までの十四の場面を、留ごと一同で祈る言葉とレリーフの情景が心に留まります。イエス様、母マリア様に申し訳ない気持ちと、私たちがこうして過ごせることへの感謝の気持ちが一留一留祈ることの中で、私の心の中はさらに信仰を深めていきました。

御ミサの神父様のお説教、聖書の朗読も心に深く留め、しっかりと考えなければならぬと思っております。少しずつ深まっていく自分自身の信仰を持って、三月三十日「復活徹夜祭」の日、洗礼受洗のお恵みに与りました。この日を迎えられたことを嬉しく思います。

私には三名の子供が居りま

す。子供たちが沖縄カトリック学園（所在、宜野湾市真栄原）に在学していた三十年ほど前、当時の理事長シスターアン（アヌンシヤンソン・大村・マリーアン）が「お勉強しますか」とお言葉をかけて下さったのは、きつと学園の中で動き回っている私を気にかけて下さったからだと思います。上の子二人が小学校、下の子が幼稚園で両方の父母会役員をしていた私

たて軸よこ軸 「新たな祈り」与り

泡瀬教会 ヨハンナ・フランシスカ 堺 ユミ

は、学園のなかにいることの間が長かったこともあり、シスターアンと接する機会も多く、そんな折のお声掛けだったのです。私はその言葉を待ち望んでいたかの様に、「教えて下さい、学びたいのです」と返事をしていました。「優しい教理問答」の本に添って、シスターアンの教えの時間は信仰への道を歩み始め、充実したときの流れを実感しておりました。「教

理」のお勉強を重ねていく中で「洗礼受洗」を願う気持ちが強くなり、シスターアンも私の変化を察し進められた学び。しかし、一年程して、私生活の中で離婚を考えるような出来事が重なり、心の動揺や暗さを悟られたことなく話すことも出来ず、「この様な状況で、このような心の有り様で『洗礼』を授かって良いのだろうか？ 聖なる教会へ通う資格はあるのだろうか」と長い期間、悩みの中にいました。その葛藤の最中、暫くするとシスターアンは御病気で入院、手術、そして退院。元気になられたと思っておりましたが、一九九八年十月八日、天の国、神様の元へ帰られました。

ざかつていきました。三十年の時が流れ、昨年の六月、心の中でずっと燦っていたものが爆発。「教会へ行かなくては。動かないことには、この気持ちには解決できない。行かなくては。」二〇二三年六月二十五日、日曜日の朝、開かれた扉に踏み入れた足取りも軽く、明るい気持ちでした。入口にいらしたのは、笑みを浮かべ、暖かい眼差しで迎え入れてくださったヨセフ・ブイ神父様でした。神父様が紹介された会長の長峯さん、「先生、長峯先生！」。カトリック学園で英語を教えておられた先生なのです。びっくりと同時に、シスターアンの「お導き」が、シスターアンのお声が。今やつと歩み出したのねと込み上げて来る暖かい気持ちで一杯になり、シスターアンがバトンタッチして下さった先生から学ぶこと、この道を歩みたいと思いました。

先生が教えて下さることは数多く、泡瀬教会の歴史、歴代の聖職者、シスター方のこと、終戦後の沖縄本島（当時、琉球）に布教活動を行うために初めて上陸なさった二人の神父様の行われたこと。無論、信徒としての基本の行い、神様への賛美と感謝、信仰の心、欠かせない事、大切なことを学ばせて頂いております。

私の信仰の心の扉を開いて下さったシスターアン。そして、シスターアンをよくご存知の長峯先生に引き継がれ、私が脱線しないよう「洗礼」の日を迎える為の導きを、先生がして下さったこと。シスターアンは、天国できつと喜んでいらっしゃると思います（満面の笑みで）。

教会に通い始めて、沢山の嬉しいことがあります。皆様の温かいお声掛け、励まし、心遣い、導き、迎え入れて下さった広い心。本当に嬉しいことです。感謝します。今後もご指導よろしくお願いいたします。

この紙面をお借りしてご挨拶でき、うれしく思います。この機会を与えて下さったことにより、過去、一歩踏み出した今の自分を見つめることができました。ありがとうございます。「新たな命」と「大きな恵み」に感謝しております。ゆるぎない信仰を持つて歩みます。

2024年4月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2024年4月2日(火) 10:00～12:00 於・安里教会ホール。

会議の前に、ヨアキム神父の司式で聖体賛美式(ベネディクション)が行われた。

1. 報告及び連絡事項：司会はクレーバー神父が担当。

- ・ウェイン司教が初めの祈りを行って開式された。
- ・前回(3月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・出張、休暇、研修等の不在予定
-4/4～6/4、マキシム神父、休暇でインドへ。
-4/6～4/16、ウェイン司教、日本司教団のアド・リミナでローマへ。
-4/26、ウェイン司教、社会司教委員会のため東京、潮見へ。
- ・ウェイン司教から各司祭たちへ、聖週間の取組への労いの言葉が述べられ、各小教区の取組や様子の報告が求められた。合わせて、聖香油ミサの実施方法等についても意見が求められた。
- ・フランシス神父－聖香油ミサ後の司祭のための夕食は用意してもらった方がよい。安里教会は幼児と大人の洗礼式があり、良い聖週間が過ごせた。
- ・マキシム神父－大勢の信徒たちが聖週間の準備を手伝ってくれ、とても良かった。
- ・ブイ神父－聖香油ミサ後の夕食はあった方がよいが、ミサ後は8時半を過ぎていたので、もう少し早くミサが始められないか検討して欲しい。小教区での聖週間の典礼も普段より多くの信徒の参加があつて良かった。
- ・ピーター・チェ神父－聖香油ミサは時間を少し早く始めた方がよいと思った。コザは受洗者も1人いたので、良い聖週間となった。
- ・サニー神父－具志川教会は復活の主日に司教訪問があり、2人の方が堅信の秘跡を司教様から授けて頂くことができ、とても良い聖週間となった。
- ・リカルド神父－聖なる3日間は平日の木、金曜日でも60人余り、聖土曜日と復活の主日には100人余りの信徒が参加してとても良かった。
- ・マイケル神父－名護と愛楽園と2ヶ所で典礼を行った。聖金曜日の参加者がいつもより多かったのが驚いた。復活の主日には所属教会の信者さんたちだけではなく、旅行で沖縄を訪れた方々も複数訪れ、大きなお祝いとなった。
- ・ナビン神父－普天間ではたくさんの信徒が聖なる3日間の典礼に与った。復活の主日に成人洗礼が3人、子ども2人が受洗し、大きな喜びに沸いた。
- ・ロドニー神父－聖週間の典礼はいつもより少し人数が多かった。復活徹夜祭には50人余りの参加があった。
- ・藤澤神父－聖香油ミサは少し時間を早めて開式し、ミサ後に司祭たちで会食出来たら良いと思う。石川教会では1人の受洗者がおられたが、小教区の人数も少ないままなので、対策を模索している。
- ・ヨアキム神父－安里教会での聖香油ミサなので、駐車場のことを考えると、時間帯は今のままが良いと思う。ミサ後の食事は別の方策を考えたら良いと思う。平良教会では復活の主日のミサ後にパーティーを行い盛況だった。
- ・ベトロ神父－主任司祭ではないが、昨年沖縄へ戻ってきてから小祿でミサに参加させていただいている。信徒が良く協力していてとても良いと思う。
- ・ボスコ神父－教区の典礼担当者として初めての役割だったが、役割分担等の調整がうまくできず、課題を多く感じた。前もって司教様や前の担当者たちと話し合う時間が取れたら良かったと思う。
- ・クレーバー神父－与那原は1人の方が洗礼を受けられた。ここ数年、複数の受洗者がおられたので、寂しい感じもしたが、沢山の信徒で聖週間の典礼が行われ盛況だった。
- ・ウェイン司教－司教訪問等で司教が小教区を訪れる際は、小教区での堅信式などの要望があれば、事前に司教と調整して欲しい。その場でいろいろと要望されても困ることが多い。常識的なことではあるが主任司祭の任務を果たして欲しい。多くの要望があるようなので、聖香油ミサの後にパーティーをしたいと思うが、司祭たちだけで行うか、信徒たちにも呼び掛けるかはもう少し検討が必要。そして、教区行事についての司教との打ち合わせも遅くとも1週間前にはお願いしたい。また、教区事務所のスタッフはそれぞれに役割を担っているので、教区行事の準備は担当司祭が中心になってそれぞれのチームで進めていただきたい。司教主式のミサの際、直前には祈りの時間を取りたいので、相談事等も直前ではなく、別に時間を取るようお願いしたい。
- ・聖木曜日の主の晩餐の後、聖堂のご像や十字架を紫の布で覆う習慣については、世界の地域ごとの慣習が異なっている。宣教師は自分の国の慣習を持ち込むのではなく、日本司教団が決めた典礼書のルブリカ(朱書き事項)に従って実施するよう注意がなされた。また、各小教区で実施する、しないが無いよう、司教の統一見解を定めてはどうかとの提言があった。
- ・聖公会の教区75周年記念ミサに押川司教とクレーバー神父が参加し、聖公会では信徒の受洗記念25周年と50周年も同時に祝っていたこと等が報告された。
- ・3月7日と8日に東京で行われたシノドスの集いにウェイン司教、ナビン神父とマーシーさん、Sr.アイヴィーが参加。シノドスを進めていく上で沢山のヒントを得た。那覇教区での集いに活かしていきたいとの報告があった。
- ・カリタス沖縄の活動について、マーシーさんから報告が行われた。4月21日と5月19日に、文化センターを会場に、「傾聴カフェ」を開催する。各小教区へポスターの掲示と呼びかけが依頼された。
- ・同じくマーシーさんから、「Together Weキャンペーン」について報告が行われた。写真展を4月から8月までの日程で取り組むことや、Together Weミサの実施についての協力依頼、8月25日にカリタス・ジャパン担当司教の成井司教様をお迎えして、安里教会で講話とミサが捧げられることが報告された。

2. 審議事項

- ・那覇教区に於けるシノドス第二会期集会は4/28日に行うことが決められたので、マイケル神父から開催についての資料が配られ、説明が行われた。当日は午後2時から4時の日程で開南教会を会場に行われる。9グループに分かれ、各グループで分かち合いを1時間行う。各グループに司会、記録者の各1名を配置。休憩を挟んでグループごとに発表を行う。各教会、修道会、グループの出席者は、第一会期の意見集約を再読して、「霊における会話」を小さなグループごとに深め、A4用紙1枚にまとめて報告書を持参するよう求められた。また、準備についてはマイケル神父とフランシス神父、ブイ神父が話し合っており、信徒たちへの協力をお願いして欲しい。教区事務所のスタッフはそれぞれに仕事を抱えており、安直に手伝いを要請しないようウェイン司教から指導がなされた。
- ・2025年は聖年、6.23沖縄慰霊の日、サマーキャンプについては、次回に討議を持ち越すこととした。
- ・マーシーさんから4月の教区内での司教予定について報告があった。4/28、教区シノドス、開南教会。
- ・次回5月の司祭会議は5月7日(火)、10時から教区センター(安里教会ホール)で行われる。

2024年4月18日 承認：ウェイン・フランシス・バートン司教 記録：新田 選

教皇フランシスコと日本の司教団

去る 4 月 12 日（金）、9 年ぶりとなる定期訪問のためバチカンを訪れた日本の司教団を、教皇フランシスコは、バチカン宮殿に迎えられた。

日本の司教らは、4 月 8 日（月）より、教皇庁の各省・各機関を精力的に訪問し、日本のカトリック教会の現在の情勢を報告すると共に、具体的な情報の交換とより緊密な関係構築に努めた。アド・リミナ（ad limina）とよばれるこの定期訪問では、「使徒たちの墓所へ」を意味するラテン語の言葉のとおり、初代教会を支え、宣教に尽くし、ローマで殉教した 2 人の使徒、聖ペトロと聖パウロの墓参りが行われる。

12 日早朝、バチカンの聖ペトロ大聖堂の地下聖堂で、今定期訪問に参加した司教らによる共同司式でミサが捧げられた。ミサには

ローマ在住の日本人カトリック共同体も参加した。ミサの後、司教らは使徒聖ペトロの墓前で祈りを唱えた。ミサに続き、バチカン宮殿で教皇フランシスコに日本の司教団が謁見し、翌日 13 日（土）午前、司教団はローマの城壁外の聖パウロ大聖堂（サン・パウロ・フォーリ・ムーラ）を巡礼し、使徒聖パウロの墓前でミサを捧げる。このミサをもって、司教らの教皇庁定期訪問は、ほぼ終了となった。



寄稿

沖縄の教会の温かさの礎となるもの

滝 奈々子（芦屋教会・神戸市）

三月十七日、カトリック芦屋教会の「川邨裕明神父様と行く沖縄平和学習の会」の一員として、芦屋教会、梅田教会や高槻教会などのメンバーで、沖縄へ行く前から、「楽しみだね、あちらこちらの教会でミサに与れるなんてラッキーだね」となかば遠足気分で神戸空港から飛び立った。

心の片隅で、「琉球民族遺骨返還の会」の今帰仁村の墓から持ち出された遺骨の返還問題を考えていたが、実際に那覇空港に降り立つと、そのような気持ちは忘

却し、関西から来た私には、那覇の美しい海は、「遠いところ、ありがとう、いらっしやい」と招いてくれているように感じ、自然の美しさに目を奪われ、国際通りで舌鼓を打っていた。

案内の山田圭吾氏（泡瀬教会）と合流し、辺野古へ行き、非常に丁寧かつ説得力のある米軍基地の有り様の説明を聴いていくうち

に、自分の能天気さを内省するようになった。実に多くの資料を提示しながら、基地問題のみならず、琉球の歴史や戦争・ジェノサイドといった琉球の人びとが「現在」直面する問題を、生の声で聴くことで、私の不甲斐なさを感じた。特に、米軍基地の演習発砲の音や、見せていただいた銃弾の葉きょうの感触はひんやりと手の中に残っている。

その後、ひめゆりの塔や津堅島を周り、琉球の人びとがご先祖さまや、私たちが何気なく歩む土地に、実は琉球の祭事に関する霊が存在することを知り、泡瀬教会でミサに与った際には、神様に「どうか琉球に真の平和を戻して欲しい」と祈りを深めた。各地の教会の皆様は、とても気持ちよく私たちを受け入れてくださり、



教区シノドス 2024年4月28日



那覇教区平和委員会



5月
例会

荒野に希望の灯をともす

100の診療所よりも1本の用水路を



中村哲さんは2002年設立された「沖縄平和賞」の最初の受賞者です。



「彼らは殺すために空を飛び、
我々は生きるために地面を掘る」
——中村哲

ドキュメンタリー
フィルム上映会

日時：5月26日(日)
14:00~16:00

場所：安里カトリック教会
主催：那覇教区平和委員会

このフィルムは「沖縄平和賞」の最初の受賞者で、
2019年12月4日、アフガニスタンで武装勢力の
凶弾に倒れた医師・中村哲志の35年の軌跡を
辿ったドキュメンタリー作品。

30分間傾聴スペース

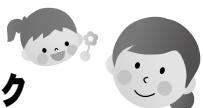


傾聴ボランティアが
待っています…

開催日: 5月19日 14:00~16:00

那覇教区子どもと
女性の権利を擁護するデスク

相談窓口 ☎098-863-2020 (火・水・木 13:00~17:00)



洗礼
おめでとぅございます

普天間教会

幼児洗礼 (3月31日)

マルガリタ (スコットランド) 川村 茜 4ヶ月

アンジェラ・メリチおとめ 川村 花 5歳

成人洗礼 (3月31日)

エリザベト (ハンガリー) 川村 温子

FRIJDA MERLIJN LEO 洗礼名 FRANCIS

セシリア 桑江 光子

泡瀬教会

復活徹夜祭 (3月30日)

アンナ 安里 沙也加

ヨハンナ・フランシスカ 堺 ゆみ

真栄原教会

復活徹夜祭 (3月30日)

シエナのカタリナ 堀之内 千夏

幼きイエスのテレジア 堀之内 澪 (みお)

与那原教会

復活徹夜祭 (3月30日)

マリア・クララ 富里 円香

NPO 法人ぶどう園の会



訪問看護ステーション クララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日~金曜日 (申込、相談など)

・営業時間 8:30~17:30

・営業日 24時間365日 (緊急対応含む)

訃報

◆名護教会

フランシスコ 田中 純久 様

2024年4月8日帰天 享年76歳

◆開南教会

アンナ 知花 美代子 様

2024年4月12日帰天 享年95歳

◆小禄教会

マクレンチ 良子 様

2024年4月25日帰天 享年84歳



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向
を最優先に考えます。何でもご
相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail: yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

24時間
受付

☎098-853-1059

てんごく

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂



~ご遺族の心をもって奉仕する~
そうてんしゃ

葬典社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための
お手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。